

森林施業NPO法人 森林の風

ニホンジカの食害対策の実施と結果

2009年11月23日

森林施業 NPO 法人 森林の風^{もり}

櫻井 龍彦

1 被害の状況

全国的にニホンジカが急増しており、森林被害が大きな問題となっています。ここ三重県の鈴鹿山系においても被害が拡大しています。

三重県内のニホンジカの推定生息数は、2002年度の38,000頭から2006年度には53,000頭と大幅に増えています。(三重県環境森林部資料)

当法人では、2005年度から三重県亀山市関町向井のフィールド(約10ha)で間伐などの森林施業活動を行っており、その時点ではニホンジカの食害による被害は目立ったものではありませんでした。ところが、2006年6月に天然絞り磨き丸太の生産林のスギの22年生林において、幹の全周を剥皮されるという珍しい被害が発生しました。その後、毎年5～6月に同様の被害が発生し、拡大する一方です。(注)

長い年月、育ててきたスギが一夜で台無しになってしまう。ましてや、全周を剥皮されれば確実に枯れてしまうという悲惨な状況です。これでは、林業が衰退するのは当然かもしれません。



2006年6月 食害の直後



2009年10月 食害で枯れてしまいました

2 食害対策の検討

このような、森林被害を目の当たりにして、ニホンジカの食害対策の必要性を痛感しました。育林事業者が行う本格的なものではなく、簡単なもの、素人にもできるものや新たなアイデアなどを取り入れた方策を次の観点から検討しました。

- ① 材料費…無料、または安価であること
- ② 労力…機械を使わずに、少ない労力で山中に運び入れることができ、簡単に設置でき

ること

- ③ 資材調達…現地や身近にあるもの、ホームセンターなどで購入できるもの
- ④ 環境…放置しても自然分解するもの、回収の必要がないか、または簡単に回収できるもの

3 食害対策の実施と結果

会員相互で知恵を絞った結果、(写真左) 2007年10月から翌年3月までに、順次エリアを決め8種類の食害対策を実施しました。

(写真右) は、2009年9月に、確認した状況です。

(1) ポリエチレンテープを幹にラセンに巻く

荷造り用のポリエチレンテープを幹に巻きつけました。

色による被害の差があるのかを見るために赤、黄、青、紫を各15本巻きましたが、処理木には被害は発生しませんでした。

巻きつけるのに手間がかかったことと、2年間で幹が肥大成長し、締め付けるようになったので巻き直しましたが、当初のようにきれいに巻きなおすことができませんでした。

(設置時)

(現状)



(2) 金網を幹に巻く

高さ1m×幅50cmの金網を20本幹に巻きつけました。

処理木には被害はなく、また、金網の上部を食べられるという被害もありませんでした。周囲の未処理木は、ほとんどが被害にあっていました。

安価で、幹が肥大成長しても多少は伸びるし、腐蝕もないので数年間は使用できます。



(3) 枝打ちした枝を幹に巻く

枝打ちした枝数本を、逆さまにして幹に巻きつけました。

10本設置したところ1本を残し、すべて被害にあいました。これは、枝を縛った紐が腐って枝が落ちたことや葉が枯れ落ち、隙間ができたところから侵入され被害にあったようです。

1.3m 位の高さまで巻きつけましたが、その上部から食べられることはありませんでした。葉が枯れたら付け直す必要があることと、近くに枝があれば良いのですが。



(4) 竹を幹に巻く

枯れた孟宗竹を割って幹に巻きつけました。15本設置したところすべて被害にあいました。竹を縛った紐が緩くなって隙間が広げられ場合や紐が腐って竹が落ちてしまっ被害にあったようです。

1本のスギに割り竹4～5本必要です。枯れた竹でも重量はかなりあります。青竹ではとても重く、運ぶことは困難です。



(5) 植樹用ケースを幹に巻く

使用済みの植栽木用生分解性プラスチックケースを縦に割り、幹に巻きつけました。隙間がないので被害はありませんでした。

植樹に使用した中古品を貰い受けたのですが、生分解性といってもかなりの長期間使用できそうです。



(6) 海苔網で林の周囲を囲む

使用済みの海苔網で約400㎡を囲いました。

網に染み込んだ塩分を舐めに来るのではないかと意見がありますが、真偽は不明です。何箇所か網を破られ侵入されました。飛び越えたのではなく、潜り抜けたようです。



(7) わら縄で林の周囲を囲む

わら縄で約400㎡を囲いました。飛び越えにくいよう段違いで2重にしました。

腐蝕が予想以上に早く寸断してしまい、その内部の被害は甚大でした。



(8) 金網で植栽木を囲む

ケヤキを植栽し、金網を円筒状にし、園芸用ポールを支柱に立て固定しました。

やわらかい金網なので、踏みつけられたのか、押しつぶされています。上からは成長点を、横からは枝を食われ、すべての木が被害にあいました。



(9) その他の被害例

1.8mの高さの 5 年で生分解するというプラスチック製の網で植栽木を囲ったものです。

上部はポールに固定してあるものの押し下げられたり、横から穴をあけられたり、下からめくり上げられたりと植栽後 1 年で壊滅状態です。

1 本当りの費用は高額で、手間もかかっています。



4 あとがき

クリーンヒットとなるような食害対策はありませんでしたが、何かの参考にしていただければ幸いです。これからも、新たな対策を考え、取り組んでゆく所存です。

シカとの共存ができ、林業が盛んになる日が早く来るように願っています。

(注：この被害状況については、三重県林業所の佐野 明主幹研究員が調査・研究し、報告されています。)

佐野 明. 2009. ニホンジカによるスギ, ヒノキ若・壮齢木の剥皮害の発生時期と被害痕の特徴. 哺乳類科学, 49: 00-00.

佐野 明. 2009. 三重県亀山市で発生したシカの剥皮によるスギ若齢木の集団枯損. 森林防疫, 58: 9-10.